



2022年(令和4年)
4月号(No. 923)

公益社団法人
日本山岳会
The Japanese Alpine Club

定価1部 150円

会員の会報購読料は年会費に含まれています

URL ● <http://www.jac.or.jp>
e-mail ● jac-room@jac.or.jp

目次

選定120古道のたたき台を発表	1
さらに検討・調整を重ね最終決定へ	4
猪熊隆之講師の「山の天気講習会」を開催	4
南アルプス市で「登一とうーウォルター・ウェストン」展を開催中	5
風力発電建設による森林破壊を止め八甲田の景観保護にご署名を!	6
追悼「日本山岳会の百年」を書いた水野勉さん	7
高木莊輔君を偲んで	
連載■ご当地アルプス登山案内	
⑦飯能アルプス	9
⑧桐生アルプス	10
東西南北 埼玉県の山の数を調べる/	
槍沢・ハシバの平石室	12
支部だより 宮崎支部	13
図書紹介	14
新入会員	16
図書受入報告	16
会務報告	17
ルーム日誌	17
会員異動	17
INFORMATION	19
編集後記	19

▶日本山岳会事務局(含図書室)取扱時間
月・火・木 10~20時
水・金 13~20時
第2、第4土曜日 閉室
第1、第3、第5土曜日 10~18時

全国山岳古道調査プロジェクト報告③

選定120古道のたたき台を発表 さらに検討・調整を重ね最終決定へ

近藤雅幸

120を選ぶまでの経緯

最近では新型コロナウイルスとの付き合い方も分かってきて、山では多くの登山者を見かけるようになった。多くの支部でも、これまではコロナ禍のためになかなか古道調査にかかることができなかったが、これからは本格的に調査が進むのでは、と期待している。

そのようななか、JAC会員に約束していた2022年3月末での調査対象古道の決定は、様々な要因により思ったより時間がかかってしまい、まだ最終的な決定に

は至っていない。ただ、今後いくつかの確認を行なって決定に至るためのたたき台はできているのでとりあえずそれを公表させていた

だくことにした。

ただ、これはあくまでもたたき台であり、これから各支部など再度対面(Zoomなど)を利用して確認と調整を行ない、詰めたうえで最終決定という運びになる。

今回の120古道選定作業は、すでに決まっていた58(59を1次で選択したが、そのうち1つは調査不能ということが判明し、リス

トから外した)の古道に加えるべき、残りの古道を決める作業を昨年12月から開始した。最初に120古道の素案を作成し、監修者のうち修験の道の権威者・鈴木正崇氏と、名著『古道巡礼』の著者・高桑信一氏に意見を聞くことになった。そのなかで、日本を代表する山岳古道であれば必ず入れなければならぬものがいくつか抜けているとの指摘があり、その意見をどう取り入れていくか頭を悩ますことになった。

「日本三百名山」を見ても分かる通り、日本山岳会が選んで発表した事業の成果は、会の意図とは関係なく、独り立ちして定着してしまふ傾向がある。今回の山岳古道プロジェクトも、おそらくその例に漏れないと思われる。それを考

えたとき、「日本の山岳古道」と謳っておきながら、その中に日本を代表する古道が入っていないというのはいかにもうまくない。

第1次で選択した古道は、あくまでも「支部や同好会、会員個人が推薦してきた古道をベースに、全国むらなくを念頭に選択したもので、どこの支部や個人も推薦しなかった古道は、日本を代表する古道であっても組板の上に載せられていない。

たとえば、熊野古道や奥駈道は世界的に知られた古道だが、第1次選択古道には選ばれていない。鈴木会員から指摘されたのも、修験や信仰の対象として外してはいけな山がいくつも抜けていることだった(飯豊山、武州御嶽山、屋久島など)。

今年に入って、そういった古道を120に取り入れる作業を開始し、さらに古道の数を120に合わせるための調整を行なったのが、ここに掲載した120古道のリストである。ただ、その古道についての情報をいちばん持つていて、多くの場合、調査を行なうのは支部であり、120古道を最終的に決定するためにはそういった支部からの視点を抜きにはできない。

まずは支部にそのような視点で見えた場合の120古道の選択について確認をし、意見のすり合わせと調整を行なうて、最終的に120古道を決定することになる。現時点では、5月までにはその作業が完了する予定である。

◆このリストはあくまでも「120古道(案)」で、各古道の名称や一部の古道の選択については、今後の検討の結果変わる可能性があることをご承知おきいただきたい。

◆担当案がブランクになっている古道は、本部の同好会や有志で調査を行なうことを考えているが、今のところは未定であり、今後、関係者らと調整のうえ決めていく。

(全国山岳古道調査プロジェクト・リーダー)

調査対象古道120案

2022年4月10日

No.	古道	調査対象 ※()内はサブ古道またはコラムで対応	担当案 ※左図()内の一部は除く
北海道			
1	北方警備の道(道北)	増毛山道・濃昼山道	北海道
2	北方警備の道(道南)	様似山道・猿留山道	北海道
3	本願寺道路		北海道
4	殿様街道		北海道

東北			
5	恐山	川内口・田名口	青森
6	みちのく松陰道 算用師峠	算用師峠越え	有志
7	岩木山	百沢口(長平口・嶽口・赤倉口(大石))	有志
8	白神山地	菅江真澄が歩いた白神山地の古道	有志
9	羽州街道 矢立峠	矢立峠越え(金山峠・矢島街道)	
10	秋田街道 国見峠	国見峠越え	岩手・秋田
11	早池峰山	大迫口・遠野口(門馬からの道など)	
12	沢内街道 白木峠	白木峠越え	秋田
13	仙北街道 十里峠・柏峠	十里峠越え・柏峠越え	岩手
14	鳥海山	吹浦口・蕨岡口・矢島口(小滝口・滝沢口・院内口)	
15	栗駒古道		宮城
16	出羽仙台街道 中山峠・山刀伐峠	中山峠越え・山刀伐峠越え	宮城
17	出羽三山	八方七口のうち羽黒山からの道と湯殿山からの道	
18	出羽の古道六十里越街道・道智道		山形
19	朝日軍道		
20	関山街道 嶺渡古道	嶺渡古道	宮城
21	二口街道 二口峠	二口峠越え	宮城
22	蔵王山	宝沢口・御山詣りコース	山形・宮城
23	万世大路 栗子峠	栗子峠越え	福島
24	飯豊山	岩倉口・川入口(赤谷口)	
25	太閤道 勢至堂峠	勢至堂峠越え	福島

北陸			
26	越後米沢街道 十三峠	十三峠越え(女川古道)	越後・未定
27	会津街道 諏訪峠	諏訪峠越え(束松峠越え・車峠越え・鳥居峠越え)	越後
28	金北金剛の三山駆け	金北山一檀特山一金剛山	越後
29	八十里越え	明治新道(天保古道・間道)	福島・越後
30	六十里越え	六十里越古道(裸山乗越)	福島・越後
31	越後銀の道 枝折峠	枝折峠越え	越後
32	三国街道 三国峠・三坂峠	三国峠越え・三坂峠越え(清水峠越え・玉原越え)	群馬・越後
33	六左衛門道	六左衛門道	越後
34	石動山	多根道(二宮道ほか)	石川
35	立山	常願寺川からの登拝道(上市＝早月川からの登拝道)	富山
36	信越連帯新道	針ノ木峠越え・平ノ渡～ザラ峠＝ザラ峠以西はコラムのみ	信濃・富山
37	古白川道	五箇山から飛騨・羽根道(道宗道)	富山
38	白山	加賀禪定道・越前禪定道・美濃禪定道(杉峠みち)	石川・福井・岐阜
39	蠅帽子峠	蠅帽子峠越え美濃側(蠅帽子峠越え(越前側))	岐阜
40	北陸道 木の芽峠	木の芽峠越え	福井

関東			
41	会津中街道 大峠	大峠越え	福島・栃木
42	会津西街道 山王峠	山王峠越え(中山峠越え・大内峠越え)	福島
43	沼田・会津街道 尾瀬越え		福島・群馬
44	西沢金山への道		栃木
45	日光修験の道	三峯五禅頂の道＝冬峯の道・男体山中宮	栃木
46	赤城山	三夜沢口・赤城口(六道の辻)	群馬
47	榛名山	主な登拝道	群馬
48	筑波山	つくば道・羽鳥道(府中道)	有志
49	十文字峠越え		埼玉・信濃
50	三峯山	三峯神社表参道(大陽寺参詣道)	埼玉

No.	古道	調査対象 ※()内はサブ古道またはコラムで対応	担当案 ※左図()内の一部は除く
51	秩父往還 雁坂峠	雁坂峠越え	埼玉
52	日原秩父往還と富士信仰の道	仙元峠越え・鷹ノ巣山越え	東京多摩
53	奥武蔵 子の権現・高山不動	子の権現登拝道・四寸道	埼玉
54	鎌倉街道 山の道		東京多摩
55	武州御嶽山		東京多摩
56	古甲州道 浅間尾根・大菩薩峠	浅間尾根・大菩薩峠越え	東京多摩
57	鹿野山	嶺岡往還(北参道)	千葉
58	相州大山	八菅修験の道・大山参拝道(日向修験の道・宮ヶ瀬越・半原越・荻野越)	神奈川
59	足柄古道		神奈川・有志
60	箱根旧街道	(湯坂道)	神奈川・有志

中部・東海			
61	塩の道・千国街道 地蔵峠・大網峠	地蔵峠越え・大網峠越え(姫川左岸の古道)	越後・信濃
62	戸隠山・高妻山	戸隠山・高妻山の信仰の道	
63	善光寺古道 柳沢峠	柳沢峠越え(柄沢峠越え・夫婦岩越え)	信濃
64	中尾峠・島々谷から徳本峠	中尾峠越え・徳本峠越え(古安房峠・飛州新道)	信濃・岐阜
65	中山道 碓氷峠	碓氷峠越え	群馬
66	中山道 和田峠	和田峠越え	
67	東山道 保福寺峠	保福寺峠越え	
68	東山道 神坂峠	神坂峠越え(逢坂峠越え)	
69	金峰山	御嶽みち	山梨
70	王曾御嶽山	王滝口・黒沢口(濁沢・開田)	岐阜
71	権兵衛街道 権兵衛峠	権兵衛峠旧道	信濃
72	南アルプス北部山岳古道	西山峠越え・足慣峠越え・十谷峠越え・夜叉神峠越え・ドノコヤ峠越えほか	山梨
73	南アルプス横断古道 転付峠・三伏峠	転付峠越え・三伏峠越え	
74	鎌倉街道 御坂みち	御坂峠越え(若彦みち・中道往還)	MCC
75	富士山	村山口・須山口・吉田口・お中道(須走口)	静岡
76	身延山・七面山		
77	秋葉街道 小川路峠・青崩峠	小川路峠越え・青崩峠越え(地蔵峠越え・分杭峠越え・杖突峠越え)	本部・東海
78	大日古道	大日峠越え(南アルプス深南部の古道)	静岡
79	飯田街道 伊勢神峠	伊勢神峠越え	東海
80	伊勢街道	伊勢街道(北)・伊勢街道(北)	岐阜

近畿			
81	鈴鹿越え古道 千草越え・八風峠	千草越え＝杉峠越え・根の平峠越え 八風峠越え(島津越え・鞍掛越えほか)	東海・京都滋賀
82	大和をめぐる古道 生駒越え	生駒越え(暗越え・山の辺の道・伊勢南街道・伊勢本街道)	
83	吉野みち	坪坂越え・芋越え・冬野越え・細越え・宮奥越え	関西
84	葛城修験の道		関西
85	高野山 七口	町石道(不動坂道・黒川口・大峰口・大滝口・相ノ浦口・龍神口)	JAC全体の行事で
86	熊野古道	中辺路・小辺路(大辺路・伊勢路)	JAC全体の行事で
87	大峯奥駈道	奥駈道(前鬼古道)	JAC全体の行事で
88	大台ヶ原山 古尾鷲道	古尾鷲道	東海
89	海山北山古道	台高山脈南部横断道	関西
90	鯖街道	東の鯖街道＝針畑越え・丹波越え(西の鯖街道・近江坂)	京都滋賀
91	京都東山 仰木峠 如意山	仰木峠越え・如意越え	京都滋賀(要確認)
92	比叡山	千日回峰道	京都滋賀
93	愛宕山(京都)	裏参道	
94	因幡交流鉄道の道 江浪峠	江浪峠越え	関西・山陰

中国			
95	智頭街道 志戸坂峠・鎌坂峠	志戸坂峠越え・鎌坂峠越え	関西・山陰
96	伯耆大山	横手道・坊領道・溝口道・丸山道・川床道	山陰
97	石見 銀山の道	鞆の浦道・温泉津沖泊道・銀山街道(やなしお道)	山陰・広島
98	石見街道 石浦峠・三坂峠・中山峠	石浦峠越え・三坂峠越え・中山峠越え	山陰・広島
99	中郡古道		広島
100	津和野街道		広島
101	萩往還		広島

四国			
102	別子銅山廃道	馬道	四国
103	四国八十八か所遍路道の山岳古道	焼山寺道・かも道ーいわや道ー平等寺道・結願直前山越えの道・弥谷寺	四国
104	剣山	北参道	四国
105	石鎚山	表参道(瓶ヶ森・笹ヶ峰)	四国
106	坂本龍馬脱藩の道 葉山街道 朽木峠	朽木峠越え	四国

九州			
107	対馬の山岳古道		福岡
108	六郷満山峰入りの道	峰入り道(国東半島ロングトレイル)	東九州
109	求菩提山	峰入り道	北九州
110	肥前・筑前街道 脊振坂	脊振坂越え(脊振山 峰入り道)	福岡
111	宝満山	かまど神社からの道	福岡
112	英彦山	春夏の峰入り道・秋の峰入り道	福岡・北九州
113	阿蘇山	阿蘇山信仰の修験者の道・阿蘇カルデラ外輪山越えの峠道	熊本
114	椎葉村の山岳古道	霧立越え・向霧立越え(ばんさん越え)	宮崎
115	霧島山(高千穂峰)	高千穂河原から(霧島東神社から)	
116	薩摩街道高岡筋		宮崎
117	飲肥街道 椿山峠	椿山峠越え	宮崎
118	鶴戸街道		宮崎
119	屋久島 岳参り道	宮之浦岳登拝道	
120	首里城を目指す道	首里城を目指す道	有志

REPORT

猪熊隆之講師の「山の天気講習会」を開催

千葉支部 藤木玄三六

3月26・27日の2日間で、猪熊隆之講師による「山の天気講習会」が千葉支部主催で行なわれた。

1日目の座学は千葉市生涯学習センターで開講、他支部や一般参加者も含め37名が参加した。猪熊講師のユーモラスな語り口に引き込まれ、登山における気象のリスク・天気図の読み方・気象遭難を

防ぐための方法を分かりやすく学んだ。天気図の読み方も初めはとつきにくいと感じていたが、基本的なポイントさえ覚えれば、誰でも自分が行く山の天気予測を立てることができる。地上の天気予報を見るだけでなく、自分で天気図を読み、天気を予測してその後の行動につなげていくことが登山におけるリスク・マネジメントとして、いかに重要かということ

を学ぶことができた。誰でも見られる天気予報ではなく、天気図を読む習慣を取り入れ、これからの山行に活かしていきたいと思った。

講習会終了後は千葉支部会員の集いの場であり、今宵の宿の「房総Base」に移動した。講師の住んでいる蓼科よりは2ヶ月も早く春が訪れ、暖かな房総の里山で内房の魚をツマミに、本日第2部となる山の天気談義を楽しんだ。

2日目は、房総Base近くの津森山で参加者11名の「ライブ授業」を行なった。津森山は菜の花とスイセン、河津桜で有名な鋸南町にあ

る標高336mの山である。登山口まではスイセン・ロードをのんびりと歩き、里山風景を楽しみながらの観天望気だ。頂上は低山ながら眺望が良く、空の変化が良く確認できるため観天望気には最適の山だ。

この日の気温は高く、朝から上空は一面の層積雲に覆われていたが、その場で実際に雲の動きや風向きの変化を観察することで、数時間後の天気がどのように移り変わっていくか予測できることを教わった。風向きと雲の動きを意識して歩いていると、天気は風の流れ・雲の動きとともに刻々と移り変わっており、ひとときも同じ時間はないということを肌で感じることでできた。

今までの山行であれば、足元や周辺の危険な箇所へ注意を払うだけだったが、雲・風向き・地形といったあらゆる情報にアンテナを張り、先々を読んだ行動をしないと気象遭難は回避できないということ改めて学んだ。また、山は地上よりも地形の影響を大きく受け、風向きが変わることによって天気の変化に影響を与えるということ、房総の低山においても体

感できた。

私は昨年の登山教室指導者養成講習会（小諸市・安藤百福センターにて）でも猪熊講師の山の天気講習会を受講させていただいているが、今後、山行リーダーを務めるに当たり、しっかりとした山の天気の知識を身に付けたく今回も受講させていただいた。今回再受講することで、さらに山の天気のカニズム理解が進み、自分でも風向きと雲の流れで予想ができそうな感触を得ることができたと思う。登山の経験や基本的知識が乏しい私にとっては、大変有意義でためになる話ばかりの講習会だった。

この講習をきっかけにして、猪熊講師が教えてくださった知識・ノウハウを実際に山で試しながら経験を積み、山の天気についての学習をさらに深め、起こりうるリスクの想定を盛り込んだ登山計画を立てることを心掛けながら、千葉支部のメンバーと安全に登山を楽しんでいこうと思った。

最後に今回、このような有意義な講習会を千葉で開催していただいたことに改めて感謝申し上げます。猪熊講師並びに関係者の方々にありがとうございます。



2日目は津森山でのライブ授業を体験

EXHIBITION

南アルプス市で「登——とう——ウォルター・ウェストン」展を開催中

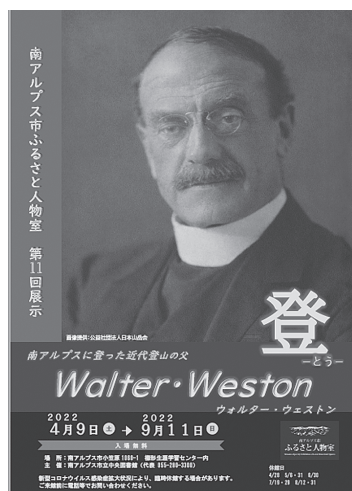
南アルプス市立中央図書館

「南アルプス市ふるさと人物室」は、平成28年10月1日に、近代に活躍した南アルプス市ゆかりの人々を紹介するために開設し、これまで建築家・内藤多仲^{たちむね}をはじめ10人の展示を行いました。第11回展示は、NPO法人芦安ファインクラブ会長・清水准一氏に展示運営アドバイザーをお願いし、「登——とう——ウォルター・ウェストン」を開催しています。

ウェストンは文久元(1861)年にイギリスに生まれた牧師で、明治21(1888)年から大正4(1915)年までの間に3度来日

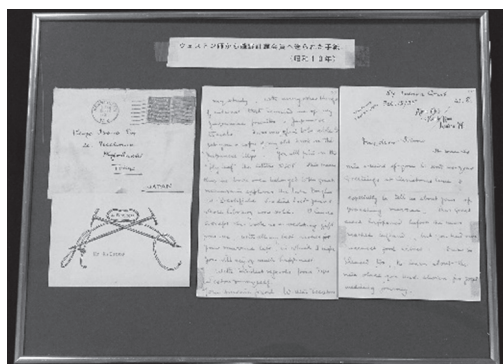
し、通算約12年間滞在、宣教師活動のかたわら精力的に登山活動を行いました。明治29(1896)年に、イギリスで『MOUNTAIN-PEERING AND EXPLORATION IN THE JAPANESE ALPS』(『日本アルプス 登山と探検』)を発行し、日本アルプスの名を世界に広く紹介しました。

明治35(1902)年、登山の案内を請うため訪れたウェストンの紳士的な態度に感銘を受けた当時の芦安村(現・南アルプス市)村長・名取運一^{なんしき}は、外国人の登山に反対する村民を説得し、北岳甲斐ヶ根^{かいがね}に登頂をサポートしました。明治37(1904)年には、鳳凰三山・地蔵岳のオベリスクの初登攀^{とちうばん}を成し遂げました。また、小島烏水^{くしまくみづ}らに日本山岳会創設を勧め、明治43(1910)年、同会最初



ふるさと人物室第11回展示ポスター

の名誉会員に推薦されま



W・ウェストンからの手紙(日本山岳会蔵)も展示

した。

ウェストンによって名付けられた「南アルプス」は当市の由来にもなっており、平成元(1989)年には、ウェストンの南アルプス開拓の功績を称え、芦安地区の広河原にレリーフが作られました。毎年6月の最終週末に、この場所です「南アルプス開山祭」の儀式が執り行なわれています。

ウェストンが北岳に初登頂してから、今年で120年を迎えます。ぜひこの機会に、本展をご高覧いただければ幸いです。また、5月28日(土)には内藤順造氏による講演会「ウォルター・ウェストンの南アルプス」を開催しますので、ご参加

ください(今号19ページのインフォメーション欄に詳細あり)。

南アルプス市ふるさと人物室第11回展示「登——とう——ウォルター・ウェストン」(入場無料)

◇展示内容 ウェストンが残した

登山記録『KAMIKOCHI

ONSENBA CLIMBERS' BOOK』、ウェストンの名刺、

手紙、サイン入り書籍など貴重な史料を展示

◇会期 令和4年4月9日(土)～9月11日(日)

◇場所 南アルプス市小笠原1060-1 橈形生涯学習センター内 南アルプス市ふるさと人物室

◇開館時間 平日11午前9時30分から午後7時まで。土日祝日11午前9時30分から午後5時まで

◇休館日 4月28日、5月6日、31日、6月30日、7月19日、29日、8月12日・31日

◇問合せ 南アルプス市立中央図書館 TEL代表055-280-13300

*新型コロナウイルス感染症の拡大状況により、臨時休館する場合があります。ご来館前に電話等でお問い合わせください。

SIGNATURE CAMPAIGN

風力発電建設による森林破壊を止め 八甲田の景観保護にご署名を！

いちのへ 義孝

八甲田連峰の北部で国内最大規模の風力発電事業が計画されているが、「青森の宝」八甲田を守ろう！と地元の市民団体が中心となり、事業の中止を求める署名活動を行なっている。

風力発電計画の問題点

(1) 一部、十和田八幡平国立公園に

含まれ森林区域に当たる。

(2) 四季折々の眺望・景観へのダメージ。

(3) 土砂崩れや水の汚染など災害へのリスク。

(4) 鳥類や動植物への生態系に及ぼすリスク。

(株)ユースエナジーホールディングスが6市町、約1万7300haの想定区域に、出力4000～5000kW級の風力発電を120～150基設置する計画で、総出力は60万kWである。

昨年11月、「みちのく風力発電事業」（仮称）の計画段階配慮書に對して、環境省は経済産業省に国立公園内に原則、発電設備を設置せず、眺望・景観への影響を回避・低減するよう意見書を提出した。それに続いて12月、青森県知事は事業者に対して、事業想定区域周辺の環境影響に十分配慮することなどを求めた経過がある。

伐採の規模は風車1基に付きおよそ陸上競技場1つ分と言われ、



風車搬入用の既存道路はなく、道路を造るだけでも大量の伐採が行

なわれ、山は切り崩され、土砂が流出する。それに伴い、ホタテなど漁業にも影響を与える。壊された環境は、二度と元に戻らないのである。仮に国立公園が除外されたとしても、北八甲田の山々から風車が多数見え、大いに景観が損なわれる。

現在の進捗状況

2月17日、市民団体として青森県知事宛に風力発電建設撤回の要望書を提出した。

このような大規模開発は、環境影響評価という手続きを取らなければならぬ。昨年9月、配慮書が公表され、方法書に進むと環境影響評価の調査が本格的に始まるので、雪で調査等ができない今のうちに、青森県や事業者へ動く必要がある。今後の事業の予定は、2022年度に方法書公表予定、概略設計作成。23年度に準備書公表予定。26年度に許可認可手続予定。27年度に建設工事着手予定で、経過

を見守っていく必要がある。

今後の展開

◇3月末に署名用紙と電子署名を集計し、4月中に県知事へ提出予定(署名運動は継続する)。

◇県内外の皆さんと八甲田の自然や環境に関するシンポジウム等を企画する予定。

20年9月、山形県の霊山・出羽三山で計画された風力発電所は、山形県知事が早期に反対意思表明をしたことで撤回された。

*

我々も高齢になりましたが、若いころから慣れ親しんだ八甲田さんに感謝し、最後の奉仕のつもりで反対しています。微力ながら撤回に向けて頑張っているところで、山を愛する皆さんのご協力を切に願います次第です。

(青森市在住、写真家)

【呼びかけ団体】

Protect Hakoda ～八甲田山の自然を後世に～ 代表・浜部信彦
事務局・〒030-0124 青森市茂木野大沢38-5 川崎充

✉mail:rin5_low@wine.pala.or.jp

TEL 090-4535-11512

*ご賛同いただける方は、QRコードから電子署名もできます。

「日本山岳会の百年」を書いた水野勉さん

南川金一

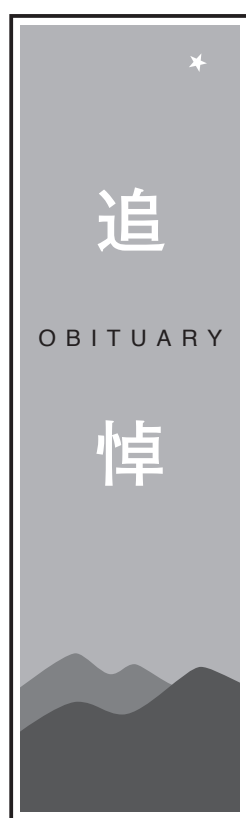


水野 勉(みずの・つとむ)
会員番号7902

1930年 東京都練馬区生まれ。東京国税局に勤務し、同局山岳部に所属する
1975年 日本山岳会入会。紹介者は近藤信行、山崎安治
1977年 日本山書の会代表に就く
1981～84年 『山岳』編集担当理事
1993～96年 図書管理委員会担当理事
1999～2007年 『日本山岳会百年史』編纂委員
2005～08年 図書管理委員会委員長
2022年1月2日 逝去、享年91
『登山家素描』などの著作のほか、『ダッタン』の山々』『カラコルム探検史』『ヒマラヤ編年史』など翻訳書多数

年が明けて間もなく、水野さんの訃報に接した。委員長であった松田雄一さんが4年前、一昨年は中村純二さん、昨年は保坂隆司さん、そして水野さんと、『日本山岳会百年史』のメンバーが次々と亡くなり、寂しい限りである。水野さんは『百年史』の「日本山岳会の百年」を執筆した。編纂委員会ではこれを「通史」と呼んだが、誰に書いてもらうかが悩みだった。顧問の織内信彦・名誉会員の「プロの

書き手に頼るようなことは考えず、たとえ拙くとも調査・研究に当たっている君たちの手で書くべきだ」との助言を受けて、水野さんをお願いすることになった。日本山岳会の歴史を調べる資料としては、『山岳』と会報があるから、それらを読めばよいのだが、記述には精粗・濃淡があり、記事からでははつきりしない事柄がある。特に1939年の社団法人化は何を意図したのか、それと戦争中の登山界と日本山岳会はどうだったのか、である。いずれも避けては通れない問題であった。



水野さんは自身の経歴などについてあまり口にしなかったが、ごく親しい人には「ぼくは小学校しか出ていないので……」と語っていた。福島県の小学校を卒業して仙台の陸軍幼年学校へと進み、在学中に敗戦、軍とともに学校はなくなってしまったのである。軍国主義は子どもにまで「忠君愛国」をたたき込んだ。

これは、私が水野さんから直接聞いた話である。「世の中には頭の良い人間がこんなにいるものかと思われるほど、幼年学校には頭の良い者が集まっていた」「敗戦とともに価値観が180度転換して苦悩した。苦悩しながら、あらゆる哲学・思想書を読んだ」「しかし、多くの頭の良い連中が、なんら苦悩することなく戦後の価値観に順応していくのが不思議だった」。

また、「ぼくは、十四歳から十五歳の間であったけれども、すでに陸軍軍人として自ら戦争に参加していた。天皇のために一身を捧げる努力をした者である」「自我の目覚めの時期に、それまで信じていた価値が否定され、新しい価値を信じよと強制された。……信ずべき権威がないので、何を頼りに生

きるべきか分からなかった」(『山書月報』第572号)と書いている。水野さんの人生観の原点は、ここにあるのである。『百年史』の通史の執筆者として水野さんの名前が上がったとき、私は諸手を挙げて賛成した。価値観の転換に苦悩した人にこそ、歴史を書いてもらいたいと考えたからである。

水野さんは「日本山岳会の百年」に「戦争と登山と」の章を設けて、戦時下の登山界が軍国主義の先鞭の役割を担った姿を究明した。「近代登山はすぐれて個人的な行為であるから、一九四〇年代前半の時期にあつては、存在する場を失いつつあつた。近代アルピニズムは単に山に登ることではない。……そこに明確な自由が息づいていなければ、近代登山は存在しない」「(戦争は)明らかに、近代アルピニズムの否定である」(『日本山岳会の百年』)と、立ち位置を明確にして、戦争推進に加担した山岳人を厳しく批判した。価値観の転換に苦悩したからこそ、戦時下の山岳界や日本山岳会を冷徹に見ることができたのだと思う。

(元「日本山岳会百年史」編纂委員会委員)

高木莊輔君を偲んで

中馬 董人

前福岡支部長だった高木莊輔君が、本年2月、入院先の福岡がんセンターの病床で薬石効なく86歳をもって逝去された。かねてより治療のため同病院等に入・退院し治療に努めており、手術後は良好な状況と聞いていただけに、突然残念な結果となり、支部役員、会員は深い悲しみに沈んでいる。

高木前支部長と私は熊本出身の同級生であり、同じ熊本高校から九州大学に進んだ。入学したのは昭和29(1954)年、「もはや戦後ではない」というキャッチ・フレーズが流行ったころの少し前だった。当時、九州大学の専門課程(本学と呼んでいた)は福岡市箱崎にあったが、教養部は福岡市六本松の旧制福岡高校跡の第一分校と、

久留米市の旧制久留米工専跡の第二分校に分かれており、私と高木君はそれぞれ福岡と久留米に分かれてしまっていた。

本学に進級したある日、大学構内ではったり再会することとなった。そのとき高木君から「私は新聞部に入部したが、君は山岳部にいると聞いた。『九大新聞』に山岳部の合宿状況を取材したい。山岳部の阿蘇合宿に連れて行ってもらいたい」との申し入れがあった。異例のことであったが登山ブーム時代の取材ということもあり、山岳部内で諮り了承された。阿蘇・高岳の東面にある鷲ヶ峰は当時、九州屈指の岩登りのゲレンデとして九州の岳人に親しまれており、九大山岳部でも年に数回は合宿をしていた。そこで彼にも岩登りの基本を体験してもらい、「九大新聞」に記事が掲載された。おそらくこれが

彼の登山の事始めであったと思う。大学卒業後、私は職域山岳会(九州電登山岳会)に入り、高木君とはまたしばらく疎遠となった。彼は民放としては九州初のテレビ局、RKB毎日放送に就職し、その後九州屈指の山岳会である「福岡山の会」に入会したようだ。同会の会員だった脇坂順一先生(久留米大学医学部教授)と親交が深く、同氏が主催する「福岡スリス友の会」にも入会し、同氏が卒寿までに海外250登を目指した海外山行にも何度か同行している。また、定年後にはフランスのグルノーブルに語学留学までし、そこでもときどき登山を楽しんだと聞いた。

彼と一緒に登山を再開したのは、お互い勤務先を定年退職してからであった。高校の同期は福岡地区にも多く、折々集まりがあった。そこで登山をやるうとの話が持ち上がり、やがて家族も含めたハイキングが催され、また、海外ではヒマラヤ・トレッキングやキリマンジャロ登山も一緒にいった。お互い還暦を過ぎてからの山行は、困難な山は体力的にも技術的にも無理があり、一般ルートでの登山やトレッキングが中心となった。

彼の日本山岳会入会は1998年10月で、会員番号12920、推薦者は当時の福岡支部長・松本僊夫氏と福岡山の会の先輩で、彼が山の師匠と仰いでいた松本康司氏。64歳での入会であった。その後、時は移り副支部長を8年間勤め、2018年の支部総会で、前任支部長であった私の任期満了に伴う新支部長の選出となり、満場一致で高木莊輔君に決まった。爾来、彼の支部長が2期4年続き、昨年度交代の年を迎えたがコロナ禍となり、支部活動も支部長交代もままならぬ状況であったため、臨時にもう1年間務めてもらい、通算5年間という異例の長期任務を遂行していただいた。今年度より新支部長・浦一美氏が就任することとなり、高木君はとて安堵し喜んでいった。それは病との戦いの最中でもあったことは、後になって知った。

彼は誠実で温厚、かつ常に品格を保ち明るい性格で、周囲から尊敬されていただけに、その人徳を失ったと思うと残念でならない。生前の厚情に深く感謝し、心より哀悼の意を捧げます。



高木莊輔(たかき・そうすけ)
会員番号12920

1935年 熊本生まれ。熊本高校から九州大学入学。新聞部に入部
1958年 RKB毎日放送入社
1995年 同社を定年退職
1998年 日本山岳会入会。紹介者は松本康司、松本僊夫
1999年 仏・グルノーブル語学留学
2003年 ファンシーパン登山隊参加
2005年 モン・ブラン登山
2007年 キリマンジャロ登山
2011~18年 日本山岳会福岡副支部長
2018~21年 日本山岳会福岡支部長
2022年2月18日 逝去、享年86
福岡山の会会員、福岡スリス友の会会員(前会長)

(元福岡支部長)

飯能アルプス

埼玉支部 鴨志田隼司

埼玉県飯能市の西側に連なる主

峰・伊豆ヶ岳(851m)から天覧山に至る長大な連山を「飯能アルプス」と称している。その範囲は、伊豆ヶ岳から南東に名栗川と高麗川を分ける山稜を、飯能市街まで至る範囲とすることもある。本稿では初心者レベルの日帰り登山が楽しめる、飯能アルプスの核心部のみを紹介したい。

なお、登山適期は7・8・9月以外の月を勧める。花の山旅を期待するならば、3月末から5月下旬までが適期であろう。



三等三角点が立つ天覚山山頂

【コースガイド】

西武秩父線の吾野駅改札口を出て、正丸駅方面に向かう下り道にある道標に導かれ、線路下を通過して登山口へ向かう。吾野駅のホームと町を見下ろす「吾野湧水」標識の先にある「大高山・天覚山登山口」から登山を開始する。

吾野は江戸時代に秩父郡坂石町分と呼ばれ、秩父往還道の馬つなぎ宿として、大市の開かれるほど栄えた旧宿場町である。目指す前坂は、中藤川の中澤と飛村を結ぶ重要な交易の峠路で、ほぼ現在の山道に沿っている。つづら折りの道をたざると、

支尾根を横切る葉研堀の古い峠路が数ヶ所残されている。さらに斜面をトラバースすると前坂に至る。

大高山への登り道の両側

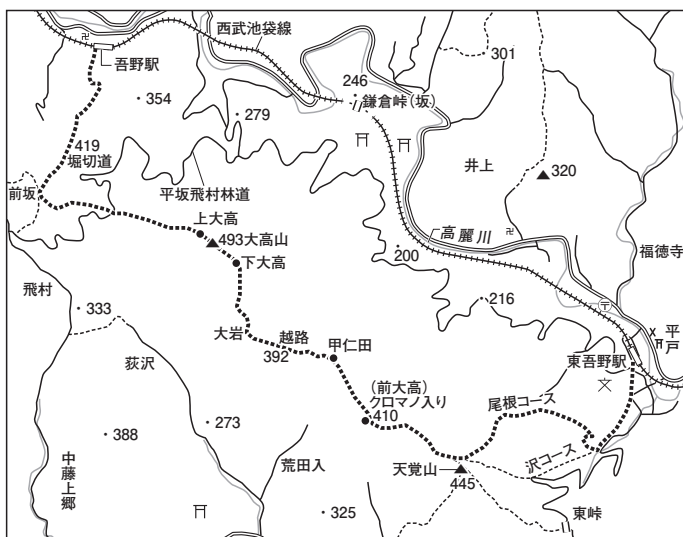
に、ヤブツバキの群落が目立つようになる。

大高山は上大高と下大高で構成される細長い山稜である。大岩を避けながら木の根にすがって大高山への急登を登り切ると、展望の少ない標高493mの山頂に立つ。冬季には山頂から大岳山と御前山の間に白銀の富士山が見える。

いよいよコースの核心部になるが、中藤側から吾野側へ越える生活路の乗越と、小さなコブが複数待ち構える。

下大高から大岩への高度差は120mある。大岩を左側を巻くようにして通過すると、392mピークを右へ降った先が越路の鞍部である。中藤中郷から鎌倉峠(坂)に通じる古い道だが、現在、往時を偲ぶものではなく、中藤川へのわずかな踏み跡がある。

次のピークが『ものがたり奥武蔵』にある甲仁田である。道標には「吾野ノ頭」とされている。モミの木が目立つ、5月にマルバウツギ



の咲く北寄りの尾根から振り返ると、アラカシと枯れ枝の間から端正な山容の大高山が望められる。天覚山へはヤブツバキの花のトンネルの下を右に下る。

前方の植林の間に天覚山の特徴的な頂上が見え始めると、岩塊が重畳する410mのピークに至る。『ものがたり奥武蔵』ではクロマノ入としている。クロマノ入を下り、路傍に大岩を認めると天覚山も近い。天覚山の平坦な西肩尾根を登

る途中から天覚山北東尾根の広場へ通じる道がある。天覚山山頂へはこのまま登り詰めて、三等三角点(445m)の頂上に達する。山頂からの展望は、西側にわずかに切り開かれた場所があり、奥多摩山城や丹沢山系、そして高尾山城まで、広大な山岳展望が楽しめる。

天覚山の山名由来は明確ではないが、明治35(1902)年の「天覚山測站」には、東吾野村字高澤敷に「俗称天覚山」として記載される。明治24(1891)年の『武蔵通志』(山岳編)には「高澤須(タカサス)山又天覚寺山と称す……古へ天覚寺あり後廃壊し今礎石及版碑を存すまだ道心山と云明治九年改て高澤須と称す……」と記し、山岳寺院の存在を伺わせる。

頂上での展望を満喫したら先ほどの分岐点まで戻り、両峰神社跡の碑がある広場に降りてみよう。歩測で100mはあろうかと思われる、静穏な空間が現われる。目測高さ20mの露出した岩塊があり、一段高くなった基壇の背後に見上げのようにそびえている。

広場からの下山路は沢コースと尾根コースがあるが、東吾野駅までの所要時間はさして変わらない。

尾根コースは両峰神社跡を背にして木の根がさらされた、参道のような杉植林の尾根道を北東に向かって進む。右に下る道が尾根コースの入り口である。途中、天覚山への道標がある場所を過ぎると急坂になる。

再びこの先にこのコース最大の急坂が待っている。坂の途中にはロープが張つてあるが、ロープに頼らずにザレ道を慎重に下ろう。降り立つた所に露岩がある。その先を斜面に沿って右に曲がり、入穴の沢を下ると沢コースに出会う。東吾野駅への道は長尾坂野口入林道をたどるよりも、山側の杉植林された小道を歩き、住宅街を抜け吾野原木センター脇から西武秩父線の踏切を渡り、そのまま駅前へ出ると良いだろう。

【コースタイム】 吾野駅(5分)登山道入り口(45分)前坂(50分)高山(35分)越路(25分)甲仁田(40分)天覚山(10分) 尾根コース入り口(40分)沢コース合流点(30分)東吾野駅(合計4時間40分、7・2km)
【地図】 国土地理院2万5000分の1地形図「原市場」「飯能」(執筆協力) 埼玉支部・浅田稔、林信行

連載■ご当地アルプス登山案内 8 桐生アルプス

織物業の街として1300年の歴史を持ち、「西の西陣、東の桐生」と呼ばれる群馬県桐生市。三方を山に囲まれ、市街地を清流が流れる自然豊かな土地でもある。群馬県選定「ぐんま百名山」の市内の南北2座を結ぶ約10kmの山並みが「桐生アルプス」だ。

南端の吾妻山(481m)は市街地に近く、市民に身近な山として親しまれている。北端の鳴神山(980m)は展望が良く、360度のパノラマが魅力だ。



縦走路の分岐には、距離と時間が表示された道標が立つ

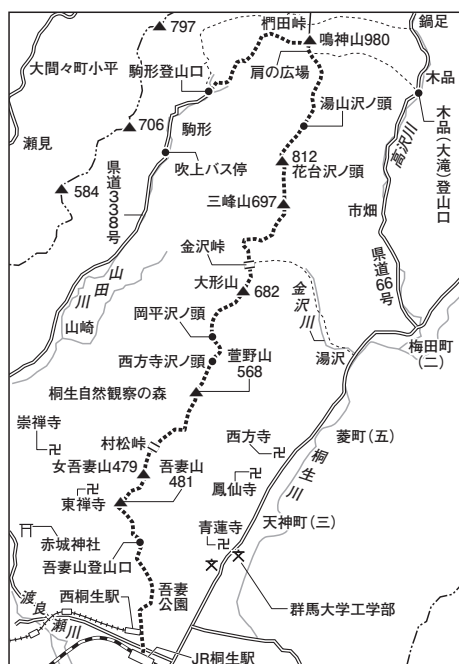
群馬支部 石垣光広

【コースガイド】

今回は吾妻山から北上し、鳴神山に向かうコースを紹介する。公共交通ならJR桐生駅や上毛電鉄西桐生駅から、登山口まで徒歩で1km余り。車なら登山口に近い吾妻公園や水道山公園に無料駐車場がある。駐車場には水道や自動販売機があるが、コース上に水場はないので注意したい。

登山口から岩場の登りが始まる。まずは急登の第一男坂・女坂だ。2つの坂が合流した先には、2億年余り前に海底でできたという枕状溶岩のトンビ岩がある。さらに急坂を登ると鞍部に出る。山頂直下の岩場を慎重に通過すると稜線で、右へ折れると吾妻山頂だ。眼下に市街地が一望でき、登山者や家族連れでにぎわう。

稜線歩きとはいえず、ここから鳴神山までは登り基調で距離8km強、時間も4時間ほどかかる。細かなアップダウンを繰り返し、累積でさらに1000mほど登る。ここ



沢ノ頭を経て高度を高め、林間の尾根を抜け、大岩を回り込むと雷神岳神社の狛犬と鳥居が現われる。2017年に完成した、きれいな無

で体調や天候を考えて進みたい。山頂からは北へ続く急な階段を下り、登り返すと女吾妻山。その北斜面にはカタクリの群生地がある。さらに下り進むと村松峠に出る。左の川内町方面、右の宮本町方面直進の鳴神山方面への分岐点だ。500mほど行くと左手側の杉が伐採された場所があり、赤城山が見通せる。間もなく林間の小ピーク、岩木戸山へ。ここまで来ると山深く、下界の音も聞こえない。いったん下って登り返すと、再び左手側の展望が開ける。赤城や榛名、浅間山などを見渡しながら登り切った先が萱野山(568m)だ。鳴神山へはそのまま直進し北上するが、左手に杉林を下ると「関東

ふれあいの道」の桐生自然観察の森に出る。そのまま下ればバス停もあり下山も可能。萱野山の分岐から間もなく西方寺沢ノ頭。道標には「鳴神山6・3km 2時間50分」とある。ここからアップダウンを繰り返す。急登と平坦で気持ちの良い広い稜線を経ると、大形山(681m)だ。ほぼコースの中間地点となる。その先の金沢峠で分岐を梅田町側に下りれば1時間ほどでバス停があり、エスケープ・ルートになる。次の三峰山(697m)は、山頂が比較的広い平坦地になっている。大きな石祠と神像があり、信仰の場所だったことが分かる。ここから登りが続く。花台沢ノ頭、湯山

小屋もある。

鳥居をくぐり岩場を登り切れば、双耳峰である鳴神山の東峰、桐生岳山頂だ。360度の展望で、日光白根山や皇海山、赤城山、浅間山、さらに八ヶ岳、筑波山、富士山、天気が良ければ東京スカイツリーも見える。ベンチがあり、ゆっくり景色を楽しみたい。いったん下って登り返すと西峰の仁田山岳となる。

下山は鳥居のある広場に下りる。コースは右手の駒形登山口(道標では「川内駒形」)に下るが、鳴神山だけに自生するカツソウのシーズンには、桐田峠まで足を延ばしたい。梅田町側に2〜3分下ると、群生地がある。駒形登山口への下山ルートは沢沿い。登山口から吹上バス停は20分ほどだが、本数は少ない。

コースは累積標高差が1300mほどになる。桐生は猛暑で知られる群馬県でも特に暑い地域のため、夏場は避けたいところだ。ただ、この時期には非常に多様なキノコを観察できるメリットもある。

鳴神山をスタートとする逆回りなら、ゴール後に観光や散



鳴神山山頂は360度の展望。北には日光の男体山(中央)などが遠望できる

策ができる。国登録有形文化財の水道山記念館や名画がそろった大川美術館はすぐ近く。西桐生駅の駅舎も開通当時の姿をとどめ、「関東の駅百選」となっている。

【コースタイム】吾妻公園(50分) 吾妻山頂上(1時間10分) 萱野山(1時間) 大形山(20分) 金沢峠(1時間) 三峰山(1時間) 鳴神山(40分) 駒形登山口(20分) 吹上バス停(合計6時間20分)

【参考資料】「桐生ハイキングガイドマップ」(桐生市)、『群馬の山歩きベストガイド』(上毛新聞社)

東西南北

N

S

会員の皆様のご意見、エッセイ、俳句、短歌、詩などを掲載するページです。どしどしご投稿ください。（紙面に限りがありますので、1点につき1000字程度をお願いします）

埼玉県の山の数を調べる

小原 茂延

支部の忘年山行で仲間I氏の卒寿山行を祝う催しが、飯能三山の柏木山で行なわれた。私は足の不調もあって参加できなかったが、御祝いのメッセージを託した。氏は90歳を迎えたものの矍鑠たる方で、支部山行の常連にして、外秩父七峰縦走、山手線一周、新宿〜青梅徒歩き、それに深田百名山も完登している方である。

そんなI氏と美術展で会った折に、「埼玉の山の数が全国で下から4番目というのなんとも解せない」という嘆きにも似た心情をお聞きして、埼玉の山をそこまで思い詰めておられるのかと感じ入った。というのは、氏の生まれは九州福岡で、旧制中学から新学制に代わり、鞍手高校（古野会長の30

年ほど先輩）を経て九州の大学を出て旧建設省に奉職。北海道を皮切りに各地を歩き、荒川国道事務所にいたころ埼玉に落ち着いた由であり、根っからの埼玉人ではない。それゆえ一層、その真剣な熱意を秩父連山に注いでいるのが分かるのである。

埼玉支部創立間もないころ、支部報バックナンバーで知るところによると、山行委員会で埼玉50山ラリーを行ない、その後「埼玉100山」候補を挙げて同山行を始めている。その候補として131山を列挙しており、I氏が『日本の山の数を数える』（山と溪谷社、2015年）にあったという山の数をすでに凌いでいるが、国土地理院2・5万図に表示されている数はあくまで119山、つまり旧陸地測量部の技師が地元に関わり合わせ記載した数が少ないのである。そんなことから、埼玉の山をも

っと知ることから始めようと7名で「彩の山研究会」を発足させ、勉強しようではないかと取り組んだのがこの3月である。

先に紹介した『日本の山の数を数える』（武内正・石丸哲也著）は、前書きにあるように、この本は1999年に刊行された『日本山名総覧』（武内正著、白山書房）1万8000山のデータを基にしている。それで同書の埼玉県の項を繙くと、三宝山（2483m）から浅間山（10m）までなんと！ 202山が挙げられている。これはどうしたことかと仔細に見ていくと、2・5万地形図に表示のない山が入っていることが判明し、唖然としてしまった（P44の順位表には116山）。

やむなく県内山地の手持ちの2・5万図に不足の十数葉を買って足して地形図表示の山を詰めてみると、ほぼ119山に一致したので、ヤマケイ版の全国の都道府県別リストに間違いはないとの結論を得た（ほかの都道府県の数も精査していない）。

しかし、I氏の情熱は岩をも溶かすで、ならばほかの山をいくつでも2・5万図に記載をお願いし

ようとの思いである。それには手続き上、地元自治体を通して申請する必要があるのはもちろん、どの山を選定するかの前に、市販されている山の地図からどれくらい山の数があるかを拾い出してみることだ。結果は予想をかなり超す300山超を数えた。そのほか、地元では知られている山などを聴き取れば400山近くに及ぶのではないだろうか。雑草という名の草はない、また雑木などという木もない」であるが、結局300山程度を地形図に記入するまでの作業をなんとか成し終えた。今後の進展を望む一方、ほかの都道府県の愛山家も同じ考えを持たれているのでは、と複雑な思いである。（埼玉支部）

檜沢・ババの平石室

牛丸 工

絵葉書を手に入れた。消印、宛名のない写真のみの絵葉書で、撮影年は不明であるが、写真の下に「日本アルプス 鎗ヶ岳登山野営地馬場の平石室 六月五日撮影 Babanotaira Japan Alps」とある。鎗ヶ岳から下る檜沢に通称「ババ



絵葉書にあったパパの平の石室

の平と呼ばれている所があり、絵葉書は「パパ」ではなく「馬場」と漢字表記となっているが、同じであろうと直感した。

せんだつて、会報「山」916号にて「2つの『二俣小屋』」という話を掲載していただいた。その調査過程で檜沢に石室があったとは知っていたが、まさか石室の写真が存在しているなどとは、夢にも思わなかった。また、会報を読まれた大森久雄会員より1990年『山岳』八十五年号の中に故・穂刈貞雄が石室のことについて書いてある、というお手紙をいただいた。パパの平の石室のことが書かれているような記憶があったので、改

めて読み直してみた。

「石室の所在について昔案内人をやった人や檜沢ロッヂで働いたところのある人たちに尋ねたが誰も知らないという。」ということで、この場所は、大正8年に長野県が設置した10軒の石室の中に含まれていない。もう少し先を読んでもみると、大正7年1月発行『山岳』十二年一号雑誌の中で、森剛馬が大正6年10月21日の日付で詳しく書いている。この日付がこの場所を通過した日か、山行から戻って記述した日か不明であるが、恐らく山行後の記述であろう。それによると森剛馬は檜ヶ岳へ登らんとパパの平付近を登り詰めていると、山小屋と岩室の建設が同時に行なわれていた、というのである。山小屋は翌大正7年に開業した「アルプス旅館」で、翌大正8年からは名称が「檜沢小屋」となった。

森剛馬は大工から話を聞いたように、石室は南安曇郡教育委員会名義であるが、篤志家・丸山盛一が全額を出資したのである。檜沢小屋と石室は目と鼻の先、隣同士で、利用者は檜沢小屋を利用することが多く、石室は痛みが激しく、管理費用の負担がかさばり、昭和

14年に南安曇郡教育委員会は経営を放棄した。現在の写真はデジタルで、引き延ばしていくと四角の集合体であるが、古い写真はガラス乾板で粒子が細かく、絵葉書程度の写真でもピントが合っていない。ば、相当細かい所まで拡大できる。石室の入り口上に2枚の看板らしきものがある。右側の看板は「馬場平石室 南安教育委員会」（南安は南安曇郡の略）で、左は字が細かく読み取りにくく不明であるが、借地期間が書かれているように読み取れて、最後に「南安教育委員会」とこちらにもある。

この写真は入り口の戸が外れているし、屋根が一部破損している

ので、石室完成時期に記念撮影されたものではなく、登山者が記念に撮影したものと考えられる。

檜沢小屋は雑木林の中にあり、この絵葉書の石室は開けた所のよいうな雰囲気、とてもお隣同士とは思えないが、まさしく今回手に入れたのは、私にとって幻の石室の写真である。今でこそ「パパの平」と呼んでいるが、パパとはいかなる漢字を当てているのかとずっと気になっていたが「馬場」とは考えてもいなかった。まさかの漢字である。この場所で馬や牛が放牧されていたなどということはないので、なぜ「馬場」なのか新たな疑問が生じたのである。（敬称略）

支部



だより

全国各地の支部から、それぞれの活動状況を、北から南へとリポートします。

宮崎支部

大雨で荒廃した双石山・小谷登山道の整備

昨年は例年と違い、豪雨の多い

年であった。全国的に各方面で甚大な被害をもたらした。宮崎においても同様で、その中でも登山者に最も愛され親しまれている双石山も、台風14号に伴う大雨で登山



整備作業中の参加者たち

口に甚大な傷跡を残しているという連絡を受け、さっそく出掛けた。双石山は宮崎市近郊にありながら自然が豊かな山で、年間に何千人という人たちが訪れる。

小谷登山口を少し登ってみるなり大きな穴が何ヶ所も目に入った。大雨により溝が枯れ木や大小の石などで埋められ、流れる場を失った水が登山道に流れ込み、土を削り取っていった傷跡である。以前に植樹した木々も、かなりなくなっていた。水の力は本当にすごいものだと思えて驚いた。どんな方法で元のようにしたらよいかと何日も現場に通い考えた。その合間を見て現場より上の登山道を整備しようと言うことになり、日向わらじ・渡辺さん、木曜会・川越さん

の3人で1日かけて横木を添え、足の踏み込みの良い高さに整え、事故が起らないように修復した。

さて、これからが本来の仕事に取り掛かるのだが、どんな方法が良いかあれこれ考え、最終的に荒武支部長にも現場を見ていただいた。支部長も同じ考えであったので作業していただく方を集めることにし、我々宮崎支部を含む9団体からなる宮崎市山岳協会の方に呼び掛け、さらに一般登山者の方たちにも色々な方法でお願いした。

10月2日、「バケツ、ヤマグワ、スコップ、一輪車などを持参で」と呼び掛けたところ55名もの大勢の方に集まっていた。特に女性が多かった。作業の手順として、まず流れを妨げている溝の土砂を取り除き、その土砂を削り取られた登山道の穴に埋めることを説明した。土砂の搬送をバケツリレーで始めると「ヨイショ、ヨイショ」の掛け声とともに作業はどんどん進んでいった。当日は天候も良く暑くて汗だくになり、1時間おきに休憩し、水分補給をした。予想では2日を要すると考えていた作業が、3時間足らずで終了できた。全員の力を結集すること

でこんなにも早く完了することができ、参加の皆さん方に感謝である。この作業の様子を歌った谷口敏子会員の短歌が地元紙の一面にある「歌の窓」に掲載された。



樋口大良十
子どもヤマビル研究会著

ヒルは木から落ちてこない。
「ぼくらのヤマビル研究記」



2021年9月
山と溪谷社
四六判 304頁
1300円+税

蒸し暑い山を雨後の翌日などに歩き、このヒルの被害に一度ならず出遭っている人は少なくないはずだ。そういう筆者もまさにヒル最盛期を含め、年間通して丹沢前衛の低山を「西山を守る会」という地元会の月例山行に参加し

「双石の登山道修復に五十五人バケツリレーで運ぶ土砂・声」

この歌から、ただ山に登るだけではなく双石山を愛する人々の姿に色々な反響があった。(川越政則)

て歩くので、春から秋にかけて目に掛からないことはない。

本書ではヒルに対する子どもらしい素朴な疑問、また、一般論でまことしやかに言われている問いにも答えるべく、子どもヤマビル研究会の仲間たちが身を挺して果敢に実験に勤しむ。疑問に対してどうやったら分かるだろうとうまく導いていくのが、ヒル研究の子どもを募った張本人であり、この本の著者でもある元小学校教師で『二人歩きの理科学習』を提唱実践している樋口氏である。藤原岳に近い三重県四日市で活動しているプロローグに続き、まず第一章で「ヒルとの出会い」、そして、第二

寄付金および助成金などの受入報告(3月まで)

寄附者など	受入金額など (単位千円)	寄附の目的、そのほか
滝川 清 会員	20	図書室運営資金寄付金
神長 幹雄 会員	35	東京多摩支部運営資金 寄付金
匿名氏	1,000	山岳古道調査寄付金
京王電鉄 株式会社	1,000	高尾の森づくりの会活動 寄付金

章では「ヒルの弱点を突き止める」と、小学生たちの『思いつき実験』も年長の中学生の鋭い突込みで鍛えられ、だんだんと本格的になっていく。指導する樋口氏は、必ず

ていき、また、事実を裏付ける研究を自信に大人相手にしっかりと答えていく子どもたちの成長、そして、その実験の見事さに読んでい側もわくわくする。

第四章の「いざ、解剖だ」では、限られた予算の中で当初はカッターを使って工夫しながらのヒルの解剖実験を紹介するが、そこで子どもたちは「痛いやろうなあ。かわいそうに。ちよつとの間の我慢だよ」とピンでヒルを固定し、「痛いぞ、ごめんね」と言いながら第一刀を入れるのである。夏の低山ではヒルに吸血されまいと飽和食塩水を用意し、見付けると片っ端から「やつつけていた」自分には思いもつけない彼らの言動優しさ。そして、指導役の樋口氏は「命に対して常に高い尊敬の念を」持つこと「これはとても大切なことだ」と語る。ヒルにも命がある、この当たり前のことをこの本で改めて教えられた。

第五章では「実験材料を確保せよ」と、恒常的な実験のためにたくさんさんのヒルが必要である彼らの、ヒル確保奔走記。すでに職人的に熟達した子どもたちのヒル確保の方法・業が愉快だ。そして、第六章ではその研究の本命とも言える

「ヒルはどうやって抜がるか」へと続き、第七章「吸血鬼ヤマビルの正体」ではヒルの卵の話、どうやって産まれるのかなど、今まで全く知らなかった、しかし、非常に興味深い世界を教えられる。

最後に、この本でも最終章に紹介されていたヒルの「撃退法」を経験も含めご紹介しておきたい。それは女性用ストッキングの装着。ヒルの吸血口はストッキングの細かな目には敵わない。ナチュラル色(黒いヒルが目立つ)で膝丈までのストッキングを登山用靴下の上から履く、山中ではそこを這い登っていくヒルを払えば問題ない(靴の中でもストッキングでヒルは吸血できず圧死? している場合もある)。忌避剤を染み込ませた登山靴、そして、ストッキング装着、また、ザックなど物を地面に直接置かない、これらに気を付ければヒルに付かれることがほぼなくなり、吸血前にたいがい払うことができる。加えて「西山を守る会」では、春前にフィールドである山麓の一部登山道の落ち葉を熊手で掻き、ヒルが潜む落ち葉の堆積を減らしている。本で紹介されていたヒルの好む棲家を駆除する。こ

の効果もかなり大きいと、毎年の活動を通して痛感している。

さて本題の、ヒルは木から落ちてこないのか? どうやって抜がるのか? の説明は本書を読んでもお楽しみとしておこう。

(中村好至恵)

石川直樹著

シエルパの友だちに会いに行く



2021年9月
青土社 168頁
四六判 1800円+税

この著書はこんな経緯で産まれた。2020年春、コロナが猛威を奮い始めると、ネパール政府はヒマラヤへの入山を禁止した。入山料などの収入減は、ある面で観光立国であるネパール政府にとって痛手であったが、それ以上に入山する遠征隊を支え、ガイドを行なうシエルパたちにとっては死活問題となった。著者は21年にカラコルムへ遠征予定があったが、それも白紙となっていた。

故郷に帰って細々と生活してい

る彼らから悲痛なメッセージを受けた著者は、何年もヒマラヤでお世話になってきたシェルパたちに、何か恩返しができないかと考え、あるアイデアを思い付く。それは、写真集を作ってシェルパの生き方や文化を日本人々に周知してもらいつつ、その売り上げを彼らに寄付するプロジェクトであった。こうして20年秋に出版された『SHERPA』はすぐに完売となつて、当初の目的は達成された。しかし、それをどう届けるか。著者は直接届けようと思ひ立つ。こうして実現した2021年春の「シェルパの友だちに会いに行く」旅を、日記風にまとめたのが、そのままタイトルになった本である。

副題に「エベレスト街道日誌2021」とあるように、日々の出来事が主体だが、著者らしく豊富な写真に加え、様々な情報や旅のヒントが満載で、さながらエベレスト街道のガイドブックである。同行したメンバーは、山歩きも初心者といった方も含めて3人。旅の途中で1人が高山病で離脱するなどのハプニングもあったが、4月16日の出発から5月5日帰国までの行動が記録されている。

図書受入報告(2022年3月)

著者	書名	頁/サイズ	発行者	発行年	寄贈/購入別
三宅岳 著	山に生きる :失われゆく山暮らし、山仕事の記録	208p/19cm	山と溪谷社	2021	出版社寄贈
登山道法研究会(編)	これでいいのか登山道 (ヤマケイ新書 No.YS065)	255p/18cm	山と溪谷社	2022	出版社寄贈
菊地敏之(編著)	日本50名ルート	224p/26cm	白山書房	2022	出版社寄贈
村井昭夫・鶴山義晃	新・雲のカタログ :空がわかる全種分類図鑑	168p/20cm	草思社	2022	出版社寄贈
横山厚夫・木暮理太郎 翁の足跡を語り継ぐ会	木暮理太郎年譜(未定稿)	10p/21cm	木暮理太郎翁の 足跡を語り継ぐ会	2021	発行者寄贈
「山の日」記念全国大会 実行委員会(編)	第5回「山の日」記念全国大会 大会報告書	61p/30cm	「山の日」記念全国 大会実行委員会	2022	発行者寄贈
王滝村誌編纂委員会(編)	村誌 王滝 :自然編	317p/26cm	長野県木曽郡 王滝村	2017	発行者寄贈
王滝村誌編纂委員会(編)	村誌 王滝 :歴史編I	229p/26cm	長野県木曽郡 王滝村	2020	発行者寄贈
王滝村誌編纂委員会(編)	村誌 王滝 :歴史編II	251p/26cm	長野県木曽郡 王滝村	2022	発行者寄贈
日本スポーツ振興センター(編)	新・高みへのステップ :国立登山研修所指導者テキスト(第1部)	226p/30cm	日本スポーツ 振興センター	2022	発行者寄贈
日本スポーツ振興センター(編)	新・高みへのステップ :国立登山研修所指導者テキスト(第2部)	167p/30cm	日本スポーツ 振興センター	2022	発行者寄贈
日本スポーツ振興センター(編)	新・高みへのステップ :国立登山研修所指導者テキスト(第3部)	151p/30cm	日本スポーツ 振興センター	2022	発行者寄贈
Thompson, Simon	Unjustifiable Risk? :The Story of British Climbing	388p/20cm	Cicerone	2012	購入

目的である寄付金の授与についてクムジュンに住む親しいシエルパのプルバに相談すると、ゴンパ(寺)に寄付したらどうか、との提案を受け、その後、各地でゴンパを訪ねていく。のちにエベレストBCを訪ね、世界初となる冬期K2登頂を果たした10人のネパールの1人、ミンマと会う。彼に祝意を伝えることも目的の一つだった。

帰途途中、これも目的のロブチェ・イーストピーク(6119m)に登頂を果たし、帰国の途に就く。巻末には写真家・上田優紀との対談、そして、同行者の「それぞれのヒマラヤ」も収められている。

コロナ禍で著者はこう行動した。さて我々は? 国内で何ができるか考えさせられた想いだった。

(荒井正人)



令和3年度第10回(3月度)理事会

議事録

日時 令和4年3月9日(水) 19時

00分)

場所 集会室およびオンライン

(Zoom)

【出席者】古野会長、坂井・橋本各

副会長、柏、南久松、萩原

各常務理事、松原・松田・

清水・飯田・久保田・平川・

川瀬・長島各理事、黒川・

佐野各監事

【欠席者】山本副会長

【オブザーバー】節田会報編集人

【審議事項】

1・令和4年度事業計画の審議を行ない承認された。(柏) (賛成14、

反対0)

2・令和4年度予算案の説明があり、承認された。(南久松) (賛成

14、反対0)

3・コロナ禍における外国人会員の会費納入期限の引き延ばしにつ

いて審議した。(柏) (賛成14、反

対0)

対0)

4・令和3年(2021年)後期・海外登山助成金審査結果について

(坂井) (賛成14、反対0)

5・山岳古道調査に対する匿名の寄付の受入について審議した。

(南久松・飯田) (賛成14、反対0)

【協議事項】

1・理事の支部担当について協議した。(松田)

2・支部からの講師派遣とリーダー育成講習の開催要望について協議した。(松田)

【報告事項】

1・正会員75名(準会員から移行含む)、準会員3名の入会を承認した旨、報告があった。(古野)

2・準会員から正会員への移行者の動向について説明があった。

(柏)

3・寄付金2件の受入報告があった。(南久松)

4・DM委員会委員長交代について報告があった。(柏・清水)

5・令和4年山研管理人雇用通知書について説明があった。(川瀬)

6・資料等の寄託継続について説明があった。(清水)

7・「山」3月号の発行に関する報

告があった。(節田)

告があった。(節田)

告があった。(節田)

ルーム日誌 3月

2日 財務委員会

7日 スケッチクラブ

8日 フォトクラブ

9日 理事会 休山会

10日 デジタルメディア委員会

11日 図書委員会

14日 二火会

16日 三水会 つくも会

22日 会報編集委員 00会

23日 家族登山普及委員会 麗山会

24日 学生部

28日 スケッチクラブ

29日 二火会

30日 資料映像委員会

3月来室者 105名

会員異動

物故

大友 繁 (9369) 22・3・27

退会

大塚八千代(7361) 越後

高倉英博(7813) 静岡

織田伸治(8116) 石川

滝田博之(8276) 静岡

斉藤チヨ(8933) 越後

中村久美子(9038)

中川雅子 (9165) 岐阜
 伊藤敏行 (9259)
 奥野 豊 (9773)
 田村 茂 (10598) 東海
 都留義之 (10672) 神奈川
 中村勝久 (10989)
 三角 朗 (11202) 埼玉
 森山幸美 (11763) 福岡
 福田博信 (11782) 東京多摩
 中村ひろ子 (11983) 福岡
 大野力彌 (12099)
 拵 恵子 (12534) 宮崎
 田中祥介 (12661) 関西
 杉本孝夫 (12745) 静岡
 久尋良謙一 (12799) 岩手
 加藤 仁 (12991)
 大西 雄二 (13188) 宮崎
 鈴木浩美 (13218) 静岡
 五十畑正弘 (13251)
 石川祐子 (13275) 秋田
 行川ゆき子 (13397)
 石橋義廣 (13404)
 熊谷英雄 (13416) 岩手
 熊谷敬子 (13417) 岩手
 黒岩タカ子 (13615) 宮崎
 荻野俊夫 (13634) 静岡
 山崎貴之 (13647)
 大塚幸美 (13707)
 廣田猛夫 (13840) 関西
 加藤 明 (13845) 熊本

玉田眞一 (13882) 東京多摩
 菅原道之 (14304)
 永井わか子 (14334) 千葉
 遠藤正子 (14402) 岩手
 飯田修造 (14494)
 櫻井勝美 (14512)
 伊藤正毅 (14513)
 長清幸子 (14687) 石川
 大塚淳一 (15012)
 阿部幸子 (15032) 東九州
 辻田孝子 (15104)
 今泉尚子 (15148) 東海
 五藤典代 (15167) 東海
 横地達夫 (15309) 東海
 杉本拓子 (15360) 北海道
 石原順子 (15394) 関西
 岩見昌樹 (15493) 静岡
 大谷恵美子 (15580) 北九州
 梶野 登 (15598) 埼玉
 尾関正吉 (15657) 東海
 藤本豪介 (15737)
 多田和子 (15777) 熊本
 土方直樹 (15803)
 木下洋子 (15854) 熊本
 栗本慎平 (16038) 東海
 国枝恵理子 (16072) 東海
 久保田重夫 (16133) 群馬
 田中基子 (16147) 東海
 犬飼美弥子 (16148) 東海
 杉本正夫 (16203) 千葉

中嶋由利子 (16331) 関西
 丹野史子 (16336)
 水井義明 (16354) 石川
 麻下絢乃 (16389) 群馬
 東海大学海洋学部体育会山岳部 (16395)
 丸山健吾 (16413) 越後
 解良知子 (16752) 東京多摩
 戸塚人実 (16787) 群馬
 森山孝子 (A0127) 広島
 鈴木久美子 (A0138)
 長岡誠治 (A0146) 東京多摩
 長神千春 (A0272) 広島
 中井敬子 (A0289) 群馬
 於保清見 (A0294)
 島雄美絵子 (A0321)
 カリニステファノ (A0372) 東京多摩
在籍期限終了離籍
 丸尾尚子 (A0129) 東京多摩
 森田泰夫 (A0137)
 中村洋子 (A0147) 東京多摩
 梶原勇樹 (A0158) 東京多摩
 大澤則彰 (A0159) 東京多摩
 山本知章 (A0165)
 三浦雅司 (A0167) 静岡
 玉井明子 (A0168) 東京多摩
 山岸香菜子 (A0169)
 佐藤眞二 (A0173) 東京多摩
 小松恵美子 (A0176)
 浅野岩夫 (A0182)

田中清貴 (A0188) 北九州
 松尾悦子 (A0193) 東京多摩
 後藤洋一郎 (A0199)
 立田朋子 (A0203) 埼玉
 萩原直樹 (A0208) 北九州
 河野 泰 (A0217) 山梨
 小野節雄 (A0225) 東九州
 金光正一 (A0226) 埼玉
正会員に移行離籍
 田川小千子 (A0130) 広島
 眞末義明 (A0133) 広島
 酒井眞澄 (A0134) 東京多摩
 打道明子 (A0135) 広島
 松尾弘幸 (A0142) 広島
 小澤知信 (A0144) 東京多摩
 菊地美奈子 (A0145) 東京多摩
 甲田五郎 (A0148) 広島
 高間晃子 (A0149) 東京多摩
 森 英昭 (A0150) 東京多摩
 浅香利恵 (A0156) 東京多摩
 矢澤大史 (A0171) 東京多摩
 山本 丈 (A0174) 京都・滋賀
 荒木萬里子 (A0177)
 仲宗根円 (A0179)
 川村徹夫 (A0181)
 市毛三朗 (A0183) 北海道
 林 洋子 (A0184)
 赤坂優貴 (A0189) 東京多摩
 赤坂憲子 (A0190) 東京多摩
 薮中由利子 (A0191)

内藤錦樹 (A0197)
小嶋香織 (A0198) 静岡
野山恵里 (A0200) 広島
篠崎真理子 (A0209)
鎌塚紀子 (A0210) 東京多摩
久保田千歳 (A0211) 越後
金山保之 (A0213) 東京多摩
大澤 祐 (A0214)
佐藤陽子 (A0215) 越後
木村樹美雄 (A0216)
小川 恕 (A0218) 静岡

細田 浩 (A0219)
山村文彦 (A0221) 東九州
大村春樹 (A0222)
野村雅子 (A0223) 東京多摩
笠井美世 (A0224) 東九州
矢上将大 (A0250) 東九州
大友寿郎 (A0273) 埼玉
小田珠美 (A0280) 埼玉
浅田 稔 (A0311) 埼玉
玉木美智子 (A0357) 神奈川
小玉和孝 (A0376) 埼玉

I N F
O R M

インフォメーション

A T I
O N

◆「ウェストンの南アルプス」講演会のご案内

南アルプス市で4月9日から9月11日まで開催される、ふるさと人物室第11回展示「登—とう—ウオルター・ウェストン」(今号5ページ参照)に併せて、以下のような講演会が開催されます。

演題 「ウォルター・ウェストンの南アルプス」

講演者 内藤順造氏(山梨県山岳連盟顧問、日本山岳会会員)

日時 令和4年5月28日(土) 午後1時30分～

場所 櫛形生涯学習センター あやめホール

申込み 入場無料(事前申込みにご協力ください)。市内各図書館で来館または電話で受け付け。

問合せ 南アルプス市立中央図書館

TEL 055-280-3300

*新型コロナウイルス感染症の拡大状況により、変更の場合があります。

ります。

◆白神山地ブナ林再生事業と自然観察会 青森支部

世界遺産・白神山地のバッファリー・ゾーン周辺の生育不良杉林地をブナ林に再生するための除伐や植樹などの作業、および原生ブナ林(クマゲラの森)観察会を行なう。寝袋必携。テントはこちらで用意できます。また、食事希望者は実費で用意可(小雨決行。ただし荒天やコロナ感染などにより日程変更・中止の場合があります)。

日程 6月25日(土)～26日(日)

集合 25日8時JR弘前駅城東口

および8時45分ビーチにしまえや、および10時30分奥赤石林道ゲート

解散 26日15時奥赤石林道ゲート、17時30分弘前駅送迎可

経費 500円(傷害保険料込み、当日徴収)

定員 30名

申込み ハガキかFAX 0172-447237かメールで福士和基宛(〒036-8154弘前市豊原2-13-14

☐f.kazunoto@gmail.com

6月15日までに。

◆編集後記

●今月上旬は会議のため、小諸市の安藤百福センターに行つてきました。周辺には「浅間・八ヶ岳パノラマトレイル」が設けられていますが、その中では「御牧ヶ原コース」がお勧めです。御牧ヶ原台地からは、浅間連峰や八ヶ岳はもちろんのこと、霧ヶ峰、美ヶ原、そして、白銀に輝く北アルプスなどの大パノラマが、それは見事です。●この台地は平安時代から鎌倉時代初頭にかけて、勅旨牧(朝廷の御料馬を育成した直轄牧場)「望月牧」があつた所で、ここで育てられた馬は名馬の誉れ高い「望月の駒」として人気で、逢坂山や宮中で「駒迎」や「駒牽」という行事まであつたとのこと。逢坂の関の清水に影見えて今や曳くらむ望月の駒」(紀貫之) (節田重節)

日本山岳会会報 山 923号

2022年(令和4年)4月20日発行
発行所 公益社団法人日本山岳会
〒102-0081
東京都千代田区四番町5-4
サンビューハイツ四番町
TEL 東京(03)3261-4433
FAX 東京(03)3261-4441
発行者 日本山岳会会長 古野 淳
編集人 節田重節
Eメール:jac-kaiho@jac.or.jp
印刷 株式会社 双陽社